



城東図書館 2026年10月16日～11月18日実施

まちのひと 松浦隆行 さんの紹介本リスト

城東区担当の行政相談委員

螢川・泥の河

宮本 輝／著 新潮社

- ・朝鮮戦争特需で高度経済成長に向かう昭和30年初頭の大阪。堂島川と土佐堀川が合流する中之島西端の川べり周辺が舞台。
- ・川べりの食堂の少年と対岸に繋がれているみすばらしい舟（廓船）に住んでいる少年と姉の少女の物語。まだ戦争の傷を抱える庶民生活のなかで、子供たちとそれを見守る大人たちの静かな優しさがすばらしい。
- ・私はこの本を読んだとき感動し大阪の川べりを背景に映画にしたいと思った。しかし、小栗康平が監督デビュー作として多くの賞を受賞。（私の邦画のランキングとしては1位）
- ・宮本輝『幻の光』も心に染みる小説。幸せな家庭生活だったのに動機がわからないまま夫の鉄道自殺、そして再婚による新しい平穏な新生活。以前幸せだった生活のなかで「電車に向かって歩いて行った夫」の行動の意味を考え続ける妻。是枝裕和監督のデビュー作として映画に。（江角マキコが新人俳優賞）

日本三文オペラ

開高 健／著 新潮社

- ・敗戦後の大阪砲兵工廠跡地とそこに残された貴重な鉄屑を狙う人々（アパッチ族）の物語。（城東区が舞台）
- ・空襲で破壊されつくした大阪砲兵工廠（森之宮周辺）の広大な荒野で、地面の下に眠る鉄屑を命がけて掘り起こし売りさばくアパッチ族と呼ばれる人々の逞しさには、戦後の大阪に集まった人々のカオス、凄まじい生きる力を感じた。
- ・同じ題材を扱った小松左京の「日本アパッチ族」（鉄屑を食べて生きる人間を題材にしているが）という作品もある。
- ・大阪人の感性を持つ開高健（天王寺生まれ、北田辺育ち）。「裸の王様」（芥川賞）、ベトナム戦争取材体験の「輝ける闇」なども推薦したい。

それでも、日本人は「戦争」を選んだ

加藤 陽子／著 朝日出版社

- ・東京大学文学部の加藤陽子教授が、神奈川県の中高生の歴史研究部の生徒20名を対象にした5日間の集中講義。中高生に語っているので非常にわかりやすい。（「小林秀雄賞」）
- ・日清・日露戦争から太平洋戦争まで、当時の日本社会が「それでも」「戦争やむなし」と判断せざるを得なかった論理を解明している。
- ・歴史を学ぶことの現代的な意味は、二度と日常にひそむ「それでも」を繰り返さないことにあるのだろうか。

深い河(ディープ・リバー)

遠藤 周作／著 講談社

- ・クリスチャンである著者が最晩年に発表した最後の長編小説。（毎日芸術賞）
- ・複数の人達がそれぞれの人生の痛みを抱えてインドへの旅立、ガンジス河に向き合うが、河の流れはただ静かに向き合い、受け入れるだけだった。
- ・宗教とは、神とは何か。命とは、生きるとは、死ぬとは。そうしたことをすべてを問いかけてくる遠藤の最後の作品。

宮本常一『忘れられた日本人』を読む

網野 善彦／著 岩波書店

- ・日本民俗学の権威宮本常一の名著「忘れられた日本人」を、歴史学者網野善彦が市民セミナーで講義した生前最後の著書。
- ・日本の歴史の中の《老人、女性、子供、遍歴民》など宮本民俗学の解説を通じて、網野歴史学の見方や広がりを感じられる。

赤毛のアン

モンゴメリ／[著] 新潮社

- ・孤児院暮らしだったアン・シャーリーが 11 歳でグリーンゲイブルズに男の子と間違っ引き取られクイーン学院を卒業するまでの 5 年を描いた物語。
- ・孤児でありながら明るくておしゃべりなアンが、周囲の人々を巻き込んで様々なハプニングを起こす心温まる話。
- ・昔読んだときは、アンの明るさに感動したが、大人になって読み返すと、アンを引き取った家の独身の兄妹、マリラと兄のマシューの優しさや心の動きがすばらしい。

坂の上の雲

司馬 遼太郎／著 文芸春秋

- ・司馬遼太郎の初めての近代が舞台の長編作品。明治維新を経て新国家となった日本が欧米列強に学びながら近代国家としての体制を整えてゆき、日清戦争などの困難を乗り越え、日露戦争でロシアに勝利するまでを描く。
- ・タイトル「坂の上の雲」とは、若者たちが国家の成長期に青春時代をおくり、個人の栄達が国家の利益となるように、坂の上の雲を目指して一心に歩んだ時代の昂揚感をあらわしたもの。松山出身の秋山兄弟（日本陸軍騎兵部隊の創設者、海軍の海戦戦術の創案者）と友人の正岡子規の人生をめくりながら物語が進行する。
- ・NHK テレビドラマになり、DVD でもみられる。司馬遼太郎がドラマ化は無理と思っていたが、非常によくできたと言われている。

苦海浄土 わが水俣病

石牟礼 道子／著 講談社

- ・水俣湾に排出された工場排水に含まれていた汚染物質による水俣病の患者の聞き書きなどを作品に。作者は作品を「浄瑠璃のごときもの」と表現。
- ・作家池澤直樹は、この作品を日本文学の代表作であり「現代世界の十大小説」の一つとして、世界文学全集に収録した。
- ・水俣病が公式に確認されてから70年がたつが、水俣病の認定をめぐる裁判はいまだ続いている。

中山寺 奥の院への道

松浦 隆行／著 清風堂書店

- ・この推薦図書作成者の松浦隆行がこの 8 月に発刊した。
- ・六甲山など近隣の山々を歩くのを趣味にしていた著者が中山寺奥の院へのコースを歩くのにはまり、千回に達したことを記念に、ハイキングガイドを発刊した。
- ・この本のハイキングマップを手に歩いてみたら新しい発見があるかも。

表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)

転載等の際は “大阪市立城東図書館「まちのひとと文庫」推薦文”との表記を入れてください

大阪市立城東図書館
大阪市城東区中央 3-5-45 06-6933-0350
<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>